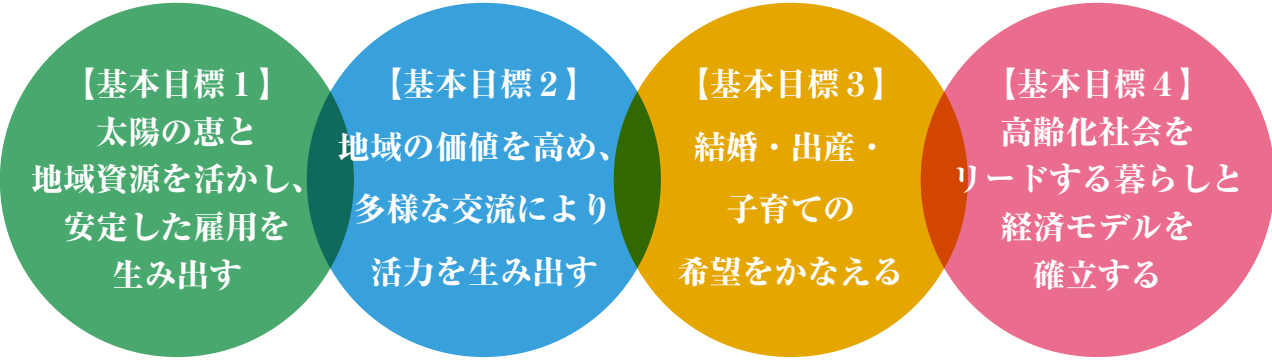


Vision 目標

本市の人口は2060年で約3万人を確保します。
その後も長期にわたり、2.5万人～3万人を維持し、
本市の持続可能な社会・経済活動の維持を図ります。

- 「しごと」を生み出すことで、若年層を中心とした福岡市等への人口流出に歯止めをかけるとともに、20代～30代の若い時期でのUターンを促進します。
(目標：18歳人口の22%程度の社会増加(定住またはUターン) 例：H32年70人 程度)
- 付加価値の高いまちづくりや魅力的な田舎暮らしの環境を創出することで、ファミリー層からアクティブシニア層までの幅広い世代のIターン(移住)を促進します。
(目標：年間50人程度)
- 結婚・妊娠・出産・子育ての希望を実現できる社会を創出し、出産数の増加と定住・移住促進へつなげます。
(目標：合計特殊出生率2015年1.99→2030年2.29→2040年2.61)
- 健康で安心して住み続けられる社会を構築し、健康寿命の延長を図ります。

4つの基本方針



目標 1



太陽の恵みと地域資源を活かし、安定した雇用を創出する

農業・水産業活性化プロジェクト／素麺産業活性化プロジェクト／Uターン・若者定住・企業誘致プロジェクト

- 【基本的方向】
- 全国屈指の“食”の産地としての農水産業の活性化
 - 品質向上と世界市場への挑戦による素麺産業の活性化
 - 若者定住・Uターンを加速させる雇用と住まいの受け皿づくり

成果指標	基準値	平成31年度(2019年)	平成52年度(2040年)
農業産出額	111.4億円／26年度	121億円／31年度	150億円／52年度
素麺出荷額	70億円／26年度	75億円／31年度	80億円／52年度
県外からの移住者数 (※Uターン窓口経由)	3人／26年度	20人／31年度	50人／52年度

特集 南島原市 まち・ひと・しごと創生総合戦略



本市の人口は、若年層の流出等を主因に急激な減少が続いています。国立社会保障・人口問題研究所の推計によると、2040年(平成52年)の人口は約31,000人、高齢化率は47%まで上昇する等、今後も人口減少・少子高齢化は続くことが予想されます。

本市が、今後、人口減少を食い止め、持続可能な地域社会を維持していくためには、若者が安心して働くことができる「雇用拡大策」と「定住・移住促進策」を両輪としたまちづくりを、長期的なビジョンを持って取り組むことが求められています。

南島原市まち・ひと・しごと創生総合戦略は、本市が生き残るために、緊急性を持って取り組むべきまちづくりをとりまとめたものです。

総合戦略の枠組み

●総合戦略の構成
『南島原市まち・ひと・しごと創生総合戦略』とは、国の長期ビジョンおよび総合戦略を勘案しつつ、本市における人口の現状と将来の展望を提示し(人口ビジョン)、その実現を目標とした今後5カ年の政策の基本的方向や具体的な施策をまとめたもの(『総合戦略』)です。

●対象期間
「人口ビジョン」の対象期間は、国の長期ビジョンの期間を踏まえ2060年(平成72年)とします。
「総合戦略」の対象期間は、平成27年度～平成31年度の5カ年とし、PDCAサイクルによる進行管理を実施し、毎年見直しを行います。

南島原がまだす商品券

使用期限が近づいています!!

見本 ¥500

見本 ¥500

使用期限：平成27年12月31日(木)まで

使用期限を過ぎた商品券の使用および払い戻しはできませんので、必ず期限内までに使用ください。

『南島原がまだす商品券の使用期限は12月31日までです。』
南島原にゆーす(10～15)



『参加者募集中』
原城マラソン大会(29)

CONTENTS

特集：南島原市まち・ひと・しごと創生総合戦略 2～5

平成26年度 決算の状況 6～7

まちの話題 8～9

南島原にゆーす 10～15

非常勤職員募集 16～19

くらしの情報 20～25

島原半島世界ジオパーク 26

国際交流員コラム 27

南島原市図書館だより 28

原城マラソン大会参加者募集 29

消費生活センター 29

保健事業のご案内 30～31

市民カレンダー 32